

所員活動一覽（二〇一二年一月一日～二〇一三年三月三十一日）

荒木 浩

● 著書

『高等学校新訂国語総合 現代文編』『高等学校新訂国語総合 古典編』『高等学校標準国語総合』『高等学校新編国語総合』（共著）第一学習社 二〇一三年二月

● 論文

〔非在〕する伝―光源氏物語の構造〕谷知子・田淵句美子編著『平安文学をいかに読み直すか』笠間書院 二〇一二年一〇月

〔読めないテキスト』『和語』で書くこと―源隆国の『安養集』遺宋と『宇治大納言物語』をめぐって〕中国日語教学研究会会刊、中国外語類核

心期刊『日語学習与研究』二〇一二・六 北京報刊発行局 二〇一二年一二月

● その他の執筆活動

「ふるさとの空はどこち?」「まほら」第七三号 旅の文化研究所 二〇一二年一〇月

「フロンティア列伝 古典に記された夢を追う」（インタビュ）朝日新聞（夕刊）二〇一二年一月七日

『国立国会図書館関西館開館一〇周年記念国際シンポジウム 図書館サービスとe戦略』『国立国会図書館月報』六二四号 二〇一三年三月

伊東貴之

● 論文

「中国思想史における『有』と『無』をめぐる諸問題・覚書』『伊藤瑞穂博士古稀記念論文集―法華仏教と関係諸文化の研究―』山喜房佛書林

二〇一三年二月

「戦後日本の中国思想史研究の諸傾向についての一考察―主として、島田虔次と溝口雄三の両氏を例として」『中国的日本認識・日本の中国認識』学術討論会論文集』復旦大学文史研究院・国際日本文化研究センター主催、復旦学報共催 二〇一三年二月

●その他の執筆活動

『本命』莫言・ノーベル賞の必然性と政治性——日中関係、多難の年、着実な翻訳・紹介も進む 海外文学・文化回顧：中国』『図書新聞』第

三〇九一号 二〇一二年一月二二日号

『書評 今こそ『歴史を鑑に未来に』歩むべき時——日中国交回復四十周年の節目の年を経て…』『日中関係史 一九七二—二〇一二』I 政治

(高原明生・服部龍二編)、II 経済(服部健二・丸川知雄編)、III 社会・文化(園田茂人編)』『週刊読書人』第二九七九号 二〇一三年三

月一日号

磯前順一

●著書

『日文研叢書五〇 植民地朝鮮と宗教—帝国史・国家神道・固有信仰』(尹海東と共編) 三元社 二〇一三年一月

●論文

「固有名のもとに——多重化する近代仏教——」田中雅一・小池郁子編『コンタクトゾーンの人文学第Ⅲ巻』晃洋書房 二〇一二年一〇月

“The Concepts of Religion and Religious Studies in Transcultural Contexts, with a Focus on Japan,” Inken Prohl and John Nelson eds, *Handbook of Contemporary Japanese Religions*, trans. by Tim Graf, Brill, 2012.

“The Recent Tendency to ‘internationalize’ Shinto: Considering the Future of Shinto Studies,” with Jang Sukman *Asiatische Studien / Etudes Asiatiques* LXVI-4, 2012.

「論・談 世界が日本を見つめている——傷ついたアイデンティティから——』『中外日報』二〇一三年一月三日

「震災後の日本で宗教を語ること——『宗教概念あるいは宗教学の死』の後に』『UP』四八三号 東京大学出版会 二〇一三年一月

「公共宗教学論の陥穽——『宗教概念あるいは宗教学の死』の後で』『現代思想』二〇一三年一月号 青土社

●その他の執筆活動

『GS, I Love You ——新規共同研究『昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化史的分析——ザ・タイガースの研究』』Nihonbunken

Newsletter No. 85 二〇一二年九月

『野の道』を歩くということ 山尾三省著 『インド巡礼日記』他』『図書新聞』第三〇八八号 二〇一二年十一月

“The Conceptual Formation of the Category ‘Religion’ in Modern Japan: Religion, State, Shinto,” *Journal of Religion in Japan*, Volume 1, Issue 3, 2012.
「崩れた真理性」を宗教の可能性を切り開く『ラジオ・カフエ・テ・モンク』インタビュー集』『図書新聞』第三一〇四号 二〇一三年三月

稲賀繁美

● 著書

The 43rd International Research Symposium Pour un Vocabulaire de la Spatialité Japonaise, Philippe Bonnin, Nishida Masatsugu et Inaga Shigemitsu eds., International Research Center for Japanese Studies, March 2013.

● 論文

「東アジアの陶藝はどのようにゆくのか」『あいだ』一九七号（連載第九〇回） 二〇一二年一〇月

“Kegon/Hayan 華嚴 View and Contemporary East Asian Art—A Methodological Proposal—,” *Gross Sections* Vol. 5, The National Museum of Modern Art, Kyoto, 2012.

『パッタモン』の再来 Battamon Returns —— 翻訳の政治学と全球化への抵抗（1）『あいだ』一九八号（連載第九一回） 二〇一二年十一月

『パッタモン』の再来 Battamon Returns —— 翻訳の政治学と全球化への抵抗（2）『あいだ』一九九号（連載第九二回） 二〇一三年一月

『한글 미술에서의 의의』 『문화와 의의』 심익진, 이 야 기・양 서 울・도 서 출 판 일 립 원, 2013년 1월（韓国語訳）「日本の美術表現にみる羊」『文
化で読む十二支神物語』羊』ソウル・図書出版 ヨルリムウォン 二〇一三年一月

「日本の美術表現にみる蛇——祝您蛇年快樂」『あいだ』二〇〇号（連載第九三回） 二〇一三年二月

「観光案内に載らないバリ案内（前）——日曜日と月曜日、たった二日で廻れる、知られざる街中の秘境」『あいだ』二〇一号（連載第九四回）
二〇一三年三月

《La Vie transitoire des formes. Un moment qui prend de la patine: une petite réflexion sur les temps de la spatialité japonaise》, *The 43rd International*

Research Symposium Pour un Vocabulaire de la Spatialité Japonaise, Philippe Bonnin, Nishida Masatsugu et Inaga Shigemitsu eds., International Research Center for Japanese Studies, March 2013.

●その他の執筆活動

「バンドラの函の底には、まだ『希望』という名の『雑草』が芽吹いている——デンニツァ・ガブラコヴァ著『雑草の夢——近代日本における「故郷」と「希望」』(本体四〇〇〇円、世織書房)を読む」『図書新聞』第三〇八二号(連載一三二) 二〇一二年一〇月

「エッセイ ジャン・レオン・ジェロームの『仏陀』と『獅子』」『ジャポニスム研究 三二』ジャポニスム学会 二〇一二年一二月

「二〇一二年下半期読書アンケート」『図書新聞』第三〇九一号 二〇一二年一二月

「『パッターモン』現象の史的背景——その源流を輸出漆器の意匠に探る——交易の海賊史観にむけて…文明の海洋史観を超えて? (1)」『図書新聞』第三〇九五号(連載一三三) 二〇一三年一月

「淡水『紅毛城』——支配者交替劇に台湾史の縮図を見る——交易の海賊史観にむけて…文明の海洋史観を超えて? (2)」『図書新聞』第三〇九六号(連載一三四) 二〇一三年二月

「海上覇権とは何か? 領域国家のヘゲモニーとしての国際秩序から脱却するために——交易の海賊史観にむけて…文明の海洋史観を超えて? (3)」『図書新聞』第三〇九七号(連載一三五) 二〇一三年二月

“Tracing over Surface, Gliding over Memories,” *Dr. Shuji Okada Portfolio for the UK Exhibition “SHIZENGAKU,”* February 2013. (「界面の軌跡・滑空する記憶」『自然学』英国展 岡田修二作品集録)

「表紙写真掲載」バリ・ギメ美術館別館テラス 日本庭園前に置かれた観音石像(掌の上にお賽銭あり)『あいだ』二〇一一年 二〇一三年三月

井上章一

●著書

『壺柩車の誕生 増補新版』(朝日文庫) 朝日新聞出版 二〇一三年一月

●その他の執筆活動

- 「日本人の忘れもの一五 名望家のつとめ」『京都新聞』二〇一二年一〇月七日
- 「書評 ユルゲン・オッテン著『ファジル・サイ』」『日本経済新聞社』（夕刊）二〇一二年一〇月一七日
- 「書評 原武史著『団地の空間政治学』」『週刊ポスト』二〇一二年一〇月二六日号
- 「書評 呉座勇一著『一揆の原理』」『日本経済新聞社』（夕刊）二〇一二年一月七日
- 「金髪幻想盛衰記」『週刊ポスト』二〇一二年一月一六日号
- 「日本美人七変化！」『CARTA』一月号（冬号）二〇一二年一月
- 「再録 考古学が覆した、文献史学の古代巨利像」丸谷才一・池澤夏樹編『分厚い本と熱い本 毎日新聞「今週の本棚」二〇〇年名作選（二〇〇五～二〇一）』毎日新聞社 二〇一二年一月
- 「書評 芳澤勝弘著『瓢鮎図の謎』」『日本経済新聞社』（夕刊）二〇一二年一月二八日
- 「性風俗」『現代社会学事典』弘文堂 二〇一二年一月
- 「現代の建築家・一〇 坂倉準三ーモダンデザインに日本をにじませしー」『GAJAPAN』119 二〇一二年一月
- 「書評 マイク・モラスキー著『吞めば、都』」『週刊ポスト』二〇一二年二月七日号
- 「書評 栗原俊雄著『二〇世紀遺跡 帝国の記憶を歩く』」『日本経済新聞社』（夕刊）二〇一二年二月一九日
- 「回顧二〇一二年 私の三冊」『日本経済新聞社』二〇一二年二月三〇日
- 「昭和の歌 私の選ぶ一曲 阪神タイガースの歌（六甲おろし）」『中央公論』二〇一三年一月号
- 「成人という言葉」『京（みやこ）まなびいニュースレター』第三号 二〇一三年一月
- 「時代を超えた『王との縁組』のつらさ」『週刊文春』二〇一三年一月三日・一〇日新年特大号
- 「対話のカタチ五 日本人の『自立』とは」『京都新聞』二〇一三年一月八日
- 「二〇一三年を乗り切るためにこれを読め！／性の東西をあじわう」『週刊ポスト』二〇一三年一月一日号
- 「書評 朝日新聞中国総局著『紅の党』」『日本経済新聞社』（夕刊）二〇一三年一月一六日
- 「バラックがかいま見えるもの——風俗と建築と」『今和次郎と考現学 暮らしの「今」をとらえた〈目〉と〈手〉』河出書房新社 二〇一三年

一月

- 〔現代の建築家・一〕 丹下健三―ローマへ道はつうじるか―『GA JAPAN』120 二〇一三年一月
- 〔書評 奥中康人著『幕末鼓笛隊』』日本経済新聞社』（夕刊）二〇一三年二月六日
- 〔書評 亀井好恵著『女相撲民俗誌』』週刊ポスト』二〇一三年二月二日号
- 〔書評 古賀義章著『飛雄馬、インドの星になれ』』日本経済新聞社』（夕刊）二〇一三年二月二七日
- 〔スペシャル対談 井上章一×鹿島茂『僕たち、美魔女を研究しています』』文藝春秋 SPECIAL』二〇一三年季刊春号
- 〔書評 井上智勝著『吉田神道の四百年』』日本経済新聞社』（夕刊）二〇一三年三月二七日
- 〔世界の日本研究とふれあって』』日文研』五〇号 二〇一三年三月
- 〔現代の建築家・一二 谷口吉郎―ファシズムかナチズムか―』GA JAPAN』121 二〇一三年三月

牛村 圭

●その他の執筆活動

- 〔現代のことば させていただきますとおっしゃられても』』京都新聞』（夕刊）二〇一二年一〇月三〇日
- 〔現代のことば スポーツを語るむずかしさ』』京都新聞』（夕刊）二〇一三年一月一〇日
- 〔現代のことば レーリーの謎』』京都新聞』（夕刊）二〇一三年三月一二日

榎本 渉

●著書

- 『南宋・元代日中渡航僧伝記集成 附 江戸時代における僧伝集積過程の研究』勉誠出版 二〇一三年三月
- 論文
- 〔唐々元代における日中交通路の変遷』林立群主編『跨越海洋―海上絲綢之路与世界文明進程』国際学術論壇文選』浙江大学出版社

二〇一二年八月

「長崎皓臺寺と福州鼓山―『日域洞上諸祖伝』撰述の背景―」『駒澤大學禪研究所年報』二四 二〇一二年一二月

「平安王朝と中国医学―一二世紀を中心に―」『東京大学日本史学研究室紀要別冊 中世政治社会史論叢』二〇一三年三月

フレデリック・クレインス

● 論文

「外国から見た江戸―一七世紀の江戸参府日記を中心に―」『理大科学フォーラム』二〇一三年四月号

● その他の執筆活動

「書評」“Confluences of Medicine in Medieval Japan: Buddhist Healing, Chinese Knowledge, Islamic Formulas, and Wounds of War.” by Andrew Edmund

Goble. In: *Monumenta Nipponica*, vol 67, no. 2, 2012.

倉本一宏

● 著書

『藤原道長の日常生活』講談社 二〇一三年三月

● 論文

「平安貴族社会における老い」『日本歴史』二〇一三年一月号（七七六） 吉川弘文館

● その他の執筆活動

「はがき通信」『日本歴史』二〇一二年一〇月号（七七三） 吉川弘文館

「撰関期古記録データベースをめぐって」『人間文化研究機構連携研究 正倉院文書の高度情報化研究シンポジウム 予稿集』二〇一三年一月

小松和彦

● 著書

『新・日本学誕生―国際日本文化研究センターの25年』（猪木武徳・白幡洋三郎・瀧井一博と共編）角川学芸出版 二〇一二年一〇月

『伝説』はなぜ生まれたか（単著）角川学芸文庫 二〇一三年三月

● その他の執筆活動

「夜叉ヶ池伝説」『劇場文化・夜叉ヶ池』SPAC・静岡県舞台芸術センター 二〇一二年九月

「わたしたちにとっての神さま」松尾恒一監修『みたい！しりたい！しらべたい！日本の神様絵図鑑 ① 願いをかなえる神さま』ミネルヴァ書

房 二〇一二年一〇月

「鯨絵をめぐる断想」『HUMAN』vol.03 平凡社 二〇一二年一二月

「あすへの話題」（連載）『日本経済新聞』（夕刊）二〇一三年一月八日、一月一五日、一月二二日、一月二九日、二月五日、二月一二日、二月

一九日、二月二六日、三月五日、三月一二日、三月一九日、三月二六日

「山口昌男さんを悼む 道化的知識人として生きる」『東京新聞』（夕刊）中日新聞東京本社 二〇一三年三月一四日

「いざなぎ流とはなにか」『いざなぎ流の研究』を書き終えて「討論」（講演録「公開シンポジウム・いざなぎ流研究の新時代へ」）『東西南北

2013 和光大学総合文化研究所年報』二〇一三年三月

佐野真由子

● 論文

『「人類の無形文化遺産」になった祇園祭——文化は誰のものにされようとしているのか』『SEEDer』七号 二〇一二年一二月

「日本の近代化と静岡——幕臣たちとキリスト教と」上村敏文・笠谷和比古編『日本の近代化とプロテスタンティズム』教文館 二〇一三年三月

● その他の執筆活動

「東アジアの一大都市」Ogataから考える』『漢陽大学日本学国際比較研究所・BK21 日本文化研究特性化チーム共同主催国際シンポジウム「東アジア近代都市空間の表象」資料集』二〇一二年一月
「人類の始まりと日本人の性文化・浮世絵春画はおもしろい」(講演録・座談会)『人間学研究』Vol.13 京都文教大学人間学研究所 二〇一三年三月

白幡洋三郎

●著書

『新・日本学誕生―国際日本文化研究センターの25年』(猪木武徳・小松和彦・瀧井一博と共編) 角川学芸出版 二〇一二年一〇月

『大名庭園 武家の美意識ここにあり(別冊太陽 日本のごころ二〇四)』(監修) 平凡社 二〇一三年一月

『異邦人のまなざし第8輯 神』(監修) 国際日本文化研究センター 二〇一三年三月

『日文研所蔵欧文図書所載 海外日本像集成』第3冊・一八七八〜一八八〇(編集) 国際日本文化研究センター 二〇一三年三月

●その他の執筆活動

『諸国街歩き』『まほら』第七三号 旅の文化研究所 二〇一二年一〇月

『あどがき』猪木武徳・小松和彦・白幡洋三郎・瀧井一博編『新・日本学誕生―国際日本文化研究センターの25年』角川学芸出版 二〇一二年一〇月

『紅葉』『狩り』定着 意外と最近 朝日新聞(大阪本社版・夕刊) 二〇一二年一月二二日

『第一八回旅の文化研究フォーラム シンポジウム『鉄道とツーリズム』(シンポジウム録)』『研究報告』No.22 旅の文化研究所 二〇一二年一月
『自然美と防災』『造園連新聞』日本造園組合連合会 二〇一三年一月一日

『生きた総合芸術―大名庭園』『交際のカギは庭園にあり』『花畑と城』『江戸の大名庭園』『戸越公園』『清澄庭園』『江戸の消えた大名庭園、生き延びた大名庭園』他、『解説』『大名庭園 武家の美意識ここにあり(別冊太陽 日本のごころ二〇四)』平凡社 二〇一三年一月

「集う楽しみ」京都新聞社編『日本人の忘れもの―京都、こころ ここに』二〇一三年二月
 「対談 色・放談」(佐藤洋一郎と)『人と自然』五号 昭和堂 二〇一三年三月

鈴木貞美

●著書

『入門 日本近現代文芸史』平凡社新書 二〇一三年一月

『上海一〇〇年―日中文化交流の場所(トポス)』(李征と共編) 勉誠出版 二〇一三年一月

●論文

「詩『伯林駅停車場』のことなど―与謝野晶子と大正生命主義(ロシア語訳)」論集『与謝野晶子の洋行』ロシア連邦極東大学 二〇一三年三月
 「東アジア近現代の概念編制史研究の現在」鈴木貞美・劉建輝編『国際研究集会報告書第三一集 東アジアにおける学芸史の総合的研究の継続的発展のために』国際日本文化研究センター 二〇一三年三月

「日本の帝国大学制度―概念編制史研究の立場から」酒井哲哉・松田利彦編『国際研究集会報告書第四二集 帝国と高等学校―東アジアの文脈から』国際日本文化研究センター 二〇一三年三月

「東アジアにおける『文』の概念をめぐる覚え書き」河野貴美子・Wiebke DENECKE 編『アジア遊学一六二 日本における「文」と「ブンガク』』勉誠出版 二〇一三年三月

●その他の執筆活動

「国際共同研究の二五年 第一回 ヴェネツィアで論じた谷崎の『美』』『産経新聞』(関西版) 二〇一二年一〇月二五日

「国際共同研究の二五年 第二回 オハイオの名翻訳者』『産経新聞』(関西版) 二〇一二年十一月二九日

「国際共同研究の二五年 第三回 カイロの日本文学サロン』『産経新聞』(関西版) 二〇一二年十二月二七日

「国際共同研究の二五年 第四回 フランスの和辻哲朗研究』『産経新聞』(関西版) 二〇一三年一月三一日

紹介「最後に伝えたいことがある」『朝日新聞』(大阪版) 二〇一三年二月一三日

「国際共同研究の二五年 第五回 中国の作家との交流」『産経新聞』（関西版）二〇一三年二月二八日
「ありがとう、日文研」*Nichibunken Newsletter* No. 86 二〇一三年三月
「日本の神がみ」『異邦人のまなび』第8輯 神「国際日本文化研究センター」二〇一三年三月
「国際共同研究の二五年第六回 豪州で『源氏』翻訳」『産経新聞』（関西版）二〇一三年三月二八日

末木文美子

●著書

『反・仏教学——仏教 vs. 倫理』ちくま学芸文庫 二〇一三年二月

『中世禅籍叢刊第一巻 栄西集』（編著）臨川書店 二〇一三年三月

●論文

「宗教と自然」平川南編『環境の日本史1 日本史と環境—人と自然—』吉川弘文館 二〇一二年一〇月

「日本人の死生観はどのように形成されたか」『中央公論』二〇一三年一月号 二〇一二年二月

“Introduction to the Symposium on Modernity and Buddhism,” *The Eastern Buddhist*, 43, 2012.

「修羅の救い——夢幻能の構造と思想」『観世』平成二十五年一月号 檜書店

「高山寺蔵『五臓曼荼羅』翻刻と研究」『平成二十四年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集』二〇一三年三月

●その他の執筆活動

「仏典に学ぶ」（連載）『朝日新聞』（大阪本社版・夕刊）二〇一二年一〇月二九日、一一月二六日、一二月一七日、二〇一三年一月二八日、二月二五日、三月二五日

「栄西著作の発見と復元」名古屋市博物館・真福寺大須文庫調査研究会編『大須観音…いま開かれる、奇跡の文庫』大須観音宝生院 二〇一二年一二月

「書評 『いのちの思想』を掘り起こす」『宗教研究』八六卷三七四 日本宗教学会 二〇一二年一二月

「思想史の観点から見た日本仏教（講演記録）『仏教史学研究』第五五巻第一号 二〇一二年一月

「序」浄慧著、何燕生・井上浩一・齋藤智寛・渡部東一郎訳『生活禅のすすめ』山喜房仏書林 二〇一二年二月

「震災後と仏教の語り」『サンガジャパン』Vol.12 二〇一二年十一月

「現代仏教を考える」『塩山』七七 二〇一三年一月

「書評 アメリカ仏教」『大学出版』第九三号 大学出版部協会 二〇一三年一月

「『ゴミ屑』にならない言葉を」『宗教と現代がわかる本二〇一三』平凡社 二〇一三年三月

「心の奥底に迫る著者の孤独 宮柊二『宮柊二歌集』」東京大学新聞社編『東大教師 青春の一冊』信山社 二〇一三年三月

瀧井一博

● 著書

『新・日本学誕生―国際日本文化研究センターの25年』（猪木武徳・小松和彦・白幡洋三郎と共編）角川学芸出版 二〇一二年一〇月

● その他の執筆活動

「書評 有泉貞夫著『私の郷土史・日本近現代史拾遺』歴史家の分際を踏まえた珠玉の史論」『環』vol.51 藤原書店 二〇一二年一〇月

「書評 宮地正人著『幕末維新変革史（上・下）』」『日本経済新聞』二〇一二年十一月一日

「政治学の古典を読む（一）『政局』家か知の政治家か」『究』十一月号（通巻第二〇号）ミネルヴァ書房 二〇一二年十一月

「大元帥・明治天皇の誕生」『歴史読本』二〇一二年二月号 中経出版

「はがき通信」『日本歴史』二〇一三年二月号（七七七）

「政治学の古典を読む（二）明治憲法の思想的源流」『究』二月号（通巻第二三号）ミネルヴァ書房 二〇一三年二月

戸部良一

● 著書

『事例研究 日本と日本軍の失敗のメカニズム』(猪瀬直樹・菊澤研宗・小谷賢・戸高一成他と共著) 中央公論新社 二〇一三年三月

● 論文

「南進と大東亜『解放』」, *International Symposium 2012, Japan and Southeast Asia: Past, Present, and Future*, Institute of International Relations, College of International Relations, Nihon University, March 2013.

● その他の執筆活動

「文献紹介 戦友会研究会『戦友会研究ノート』『軍事史学』第四八巻第三号 二〇一二年一月」

「猪木正道さんを悼む―『縁の下』にも労を厭わず」『読売新聞』二〇一二年一月八日

「追悼 猪木正道―戦鬪的リベラリストの生涯」『中央公論』二〇一三年一月号

「猪木正道先生を偲んで」『有信会誌』第五七号 二〇一三年三月

早川聞多

● 著書

『別冊太陽 国芳の春画』(共著) 平凡社 二〇一二年一月

『現代語訳春画』新人物文庫 新人物往来社 二〇一二年二月

● 論文

「人類の始まりと日本人の性文化・浮世絵春画はおもしろい」(講演録・座談会)『人間学研究』Vol. 13 京都文教大学人間学研究所 二〇一三年三月

ジョン・ブリン

● 論文

“The Imperial Oath of April 1868: Ritual, Power and Politics in Restoration Japan,” Reprinted in Ben-Ami Shilony ed., *Critical Readings on the Emperors*

of Japan, vol. 3, Brill, 2012.

「知られざる業績・近代日本外交史に果たした明治天皇の役割」『歴史読本 明治天皇 一〇〇年目の実像』二〇一二年二月号 二〇一二年一〇月

“Frie Words Indeed: Yasukuni and the Narrative Fetishism of War.” Inken Prohl and John Nelson, eds, *Handbook of Contemporary Japanese Religions*, Brill, 2012.

●その他の執筆活動

「シンポジウム 明治天皇とその時代―明治天皇崩御百年・明治天皇御生誕百六十年―」明治聖徳記念学会編『明治聖徳記念学会紀要』復刊第四九号 二〇一二年一月

細川周平

●著書

『日系ブラジル移民文学Ⅰ 日本語の長い旅 歴史』みすず書房 二〇一二年十二月

『日系ブラジル移民文学Ⅱ 日本語の長い旅 評論』みすず書房 二〇一三年二月

●その他の執筆活動

「宝箱に眠る、とんでもない代物たち。」『Leaf』二〇一二年一〇月号

「上野」に集まる文化人」東京音楽学校校友会発行『音楽』CD-ROMチラシ 不二出版 二〇一二年一月

「アンケート 眠れぬ夜の本 マイベスト3」『考える人』二〇一三年冬号 二〇一三年一月

「読書アンケート」『みすず』二〇一三年一／二月号 二〇一三年二月

「時計と計時」『鉄路の音』『ブリベアド・トレイン』乗車記』『アルテス』VOL.04 2013 SPRING 二〇一三年三月

松田利彦

● 著書

『国際研究集会報告書第四〇集 植民地帝国日本における支配と地域社会』 国際日本文化研究センター 二〇一三年三月

『国際研究集会報告書第四二集 帝国と高等教育―東アジアの文脈から―』 (酒井哲哉と共編) 国際日本文化研究センター 二〇一三年三月

『地域社会から見る帝国日本と植民地―朝鮮・台湾・満洲』 (陳延媛と共編) 思文閣出版 二〇一三年三月

● 論文

「植民大学比較史研究の可能性／不可能性」 酒井哲哉・松田利彦編『国際研究集会報告書第四二集 帝国と高等教育―東アジアの文脈から―』

国際日本文化研究センター 二〇一三年三月

「序〈相互参照系〉としての植民地朝鮮と台湾」 松田利彦編『国際研究集会報告書第四〇集 植民地帝国日本における支配と地域社会』 国際日

本文化研究センター 二〇一三年三月

「序」 「解説」 (陳延媛と共同執筆) 「植民地支配と地域社会―朝鮮史研究における成果と課題―」 「植民地期朝鮮における消防組について」 松田

利彦・陳延媛編『地域社会から見る帝国日本と植民地―朝鮮・台湾・満洲』 思文閣出版 二〇一三年三月

● その他の執筆活動

「書評 Erin Aeran Chung, *Immigration and Citizenship in Japan*, New York: Cambridge University Press, 2010」 『在日朝鮮人史研究』 第四二号

二〇一二年一〇月

「翻訳 洪淳権著『日帝下朝鮮の地域社会研究と「草の根植民地支配」について』」 「翻訳 朴贊勝著『一九二〇年代初期の朝鮮における青年会

運動と支配当局の対応』 (金炳辰と共訳) 松田利彦編『国際研究集会報告書第四〇集 植民地帝国日本における支配と地域社会』 国際日本文

化研究センター 二〇一三年三月

「翻訳 鄭駿永著『京城帝大法医学教室の血液型研究と植民地医学』 (金炳辰と共訳) 酒井哲哉・松田利彦編『国際研究集会報告書第四二集 帝

国と高等教育―東アジアの文脈から―』 国際日本文化研究センター 二〇一三年三月

「翻訳 李鐘敗著『日本の植民地支配と答刑―朝鮮の事例を中心に―』 松田利彦・陳延媛編『地域社会から見る帝国日本と植民地―朝鮮・台湾・

満洲』思文閣出版 二〇一三年三月

山田奨治

●著書

“Pirate” Publishing: *The Battle over Perpetual Copyright in Eighteenth-Century Britain*, Translated by Lynne E. Riggs, International Research Center for Japanese Studies, 2012.

●論文

「模倣と創造の文化史再考」『日本知財学会誌』第九卷第三号 二〇一三年三月

●その他の執筆活動

「中浜万次郎―不運を活かして活躍した日本人」『社会科学教育』二〇一二年一〇月号

劉 建輝

●著書

『日中二百年―支え合う近代』武田ランダムハウスジャパン 二〇一二年一〇月

『日華学会関連高橋君平文書資料Ⅰ』国際日本文化研究センター 二〇一三年三月

『国際研究集会報告書第三一集 東アジアにおける学芸史の総合的研究の継続的発展のために』（鈴木貞美と共編 国際日本文化研究センター 二〇一三年三月）

●論文

「日本占領下の上海文壇―田村俊子の足跡を中心に」鈴木貞美・李征編『上海一〇〇年―日中文化交流の場所（トポス）』勉誠出版 二〇一三年一月